飯塚市の魅力を伝える『飯塚検定』の開発と実践

瓜生隆弘

Development and Practice of a trivia for engaging view of Iizuka area. − With leveraging a Web-site for cellular phone and create an original handbills − An interim report

Takahiro Uryu

Abstract

This is an interim report about five students made a trivia for engaging view of Iizuka area and compiled a booklet titled" WAO!" Uryu laboratory in KJC of Kinki University have studied about reactivation in shopping arcade since 2007 .This research activity was supported by Iizuka research grant, 2009 .

Keywords

Community making, Experience, Participation learning, Student

1．はじめに

筆者の研究室は、平成 19 年度より飯塚市中心商店街の活性化に資する取り組みを続けている。平成 20 年度と 21 年度に飯塚市大学支援補助金が交付され、学生と地域との協働によるまちづくり活動が本格化した。本稿では平成 21 年度飯塚市大学支援補助金の助成を受けて実施しているご当地検定『飯塚検定』の開発と実践について報告する。

2．背景と経緯

地域と連携してまちづくり活動を展開するには、次の 4 つの視点を堅持していくことが肝要であると指摘されている。すなわち、“①地域からの「自発的」営みとして、当該地域の人びとが地域の抱えるさまざまな地域資源を再評価し、その発揚に基づく展開をはかること。②地域に存在するモノ・コト・トキは相互に連関していることを念頭に置き、それらを「全体的に」

つなげていく展開をはかること。③地域の生活文化・歴史との「連続性」を基底において構想することにより当該地域のアイデンティティが増幅される展開をはかること。④地域の人びとが抱きがちの「ないない尽くし」の発送は広い視野で自己の地域を見つめていないことの証左であるとの認識に立ち、自らの「眼の覚醒」をはかりつつ、地域のおよそすべての人びとが主人公になれる等身大の構想を柔軟に展開していくこと。”が肝要であると指摘されている。[1]

筆者が平成20年5月頃より、クイズ・検定サイト[2]　で提供している3つの検定がある。過去1年間（平成21年5月30日迄）の実績はつぎの通りであった。「長崎街道検定」（87名が挑戦、44名が全5問正解）合格率51.1％、「飯塚検定」（136名が挑戦、103名が全5問正解）合格率75.7％、「飯塚スイーツ検定」（141名が挑戦、75名が全5問正解）合格率53.2％。

そこで本研究では学生と地域が協働して、まちの魅力を再評価し、情報発信につなげる仕組みについて検討することとした。その結果、飯塚市の歴史と伝統を題材にしたご当地検定『飯塚検定』を企画・開発し、パソコン向けホームページや携帯サイト、さらに情報紙を発行することによってご当地検定を実践することとした。

3．目的

飯塚市は、地域活性化を進めていくために、市内の3大学（九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学）との連携が不可欠と考えている。特に、大学生や短大生を“まちづくりのプレイヤー”と位置づけ、学生たちの積極的な社会参画を促進し、若さ溢れる行動力とアイデアを活かした地域ぐるみの人材育成が重要であるとの認識に立っている。若い学生は無責任で継続性がない一面もあるが、自由な発言や行動で新しいアイデアを創出する可能性を秘めている。それをどこまでまちづくり活動に結びつけられるかがポイントとなる。

本研究では、ご当地検定『飯塚検定』の開発と実践を題材にして、学生がまちづくり活動に関わることによって、どのような効果が生まれるのかを実践的に明らかにすることを目的とした。また、パソコン向けホームページ、携帯サイト、情報紙の3つの経路からのご当地検定への応募者の特徴についても分析する。

飯塚観光協会でまちの見所を調査
（平成21年5月27日）

嘉穂劇場前で新聞社より取材を受ける
（平成21年10月7日）

４．方法

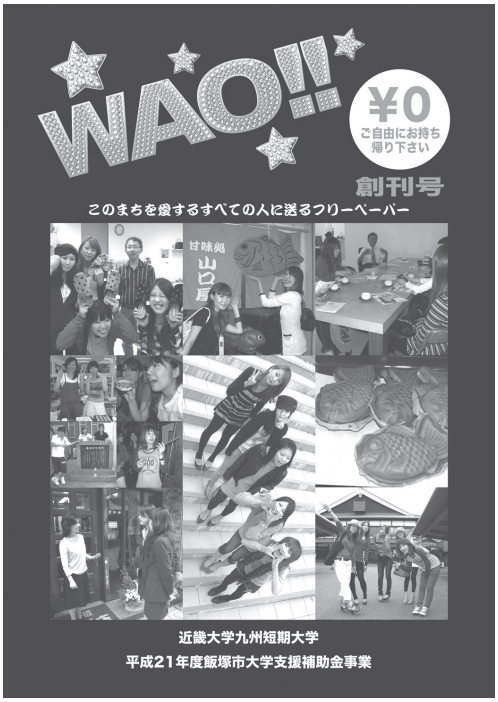
（４－１）検定問題の作成

商店主やボランティア団体、観光協会などから問題を提供していただき、本学学生ができるだけ現場に出向いて正誤を確認した。問題を 20 問に絞り込み、比較的簡単な 10 問を初級、比較的難しい 10 問を中級として、9 月下旬にパソコン用ホームページや携帯サイトで公開した。

（４－２）検定問題の公開

平成 21 年 10 月にインターネットでの受検受け付けを開始し、期限は 12 月末日に設定した。飯塚市中心商店街とバスセンター、ＪＲ飯塚駅などの人通りの多い市内 6 箇所にポスターを掲示した。商店街の空き店舗を借りて運営している飯塚 GENKI 館（飯塚市本町 10 番 14 号、旧パソコン館）を本研究の拠点とするとともに、検定問題を大型パネル（Ａ１サイズ）に仕上げ、ウィンドウに常時掲示した。ポスターやチラシには QR コードを付加し、携帯電話からも応募できるように工夫した。

また、インターネットからの応募情報はＳＳＬ技術を利用して暗号化し、情報の安全性を高めた。[注1] レンタルサーバを利用してＰＣ向けホームページや携帯サイトを公開し、収集した応募情報はデータベースに蓄積することとした。



（４－３）学生による情報誌の発行

学生自らが情報紙の発行を計画した。掲載内容は学生の視点を活かして「美容と健康」と「グルメ」を中心にした記事とし、ご当地検定の紹介に全体の８ページのうち１ページを使用する。

学生自らが企画・編集する情報誌は、若い世代のみならず、パソコンや携帯電話に不慣れな高齢者にも広くアピールできると期待できる。また、他大学で同じようにフリーペーパーを発行している同好会等との交流が生まれるのではないかと期待している。配布方法は、飯塚市中心商店街の若手が発行している情報紙「飯まち探検隊」の配布に便乗させていただくことを検討している。11 月中旬に発行し、駅やバスセンター、商店街など主要な場所で学生自らが配布する予定である。

（４－４）参加記念品

『飯塚検定』の全問正解者には飯塚観光協会と飯塚井筒屋サロンの協力を得て、抽選で200名へ記念品を提供することとした。[注2] 当選者には記念品引換ハガキを送る。引き換え場所は飯塚井筒屋サロン（飯塚本町商店街）と飯塚観光協会（飯塚市吉原町あいタウン２階）とした。

５．先行事例の調査

（５－１）唐津・呼子イカ検定

平成21年7月23日に唐津・呼子イカ検定委員会が主催し、唐津市や唐津観光協会などの後援を受けて実施されている唐津･呼子イカ検定について現地調査を行った。このご当地検定は、唐津・呼子イカ検定委員会が平成18年に呼子町の活性化策として始めたものであり、11月に347問の問題と解答・解説が掲載された公式テキストブック（1,000円、Ａ５版）を発行。受験料は3,000円で、イカに関する問題や唐津の農水産業について、唐津の文化・歴史が出題される。出題100問、択一方式。試験時間は60分である。100問中70問以上の正解で合格とされ、認定証や認定カード、認定バッジなどが与えられる。認定カードを見せると地域のホテル旅館・飲食店など、40店舗以上で１割から２割の宿泊代金の値引きやビール一杯サービス、お料理一品サービスなどの割引サービスなど特典を受けることができる。商店街に机を並べて検定試験が実施されるなど賑わいづくりの工夫が感じられた。

平成19年2月に第1回の検定試験を実施し、平成20年9月からはさらに高度な知識を必要とするイカマスター試験を企画・実施している。イカマスター試験の合格者は呼子朝市通りのモニュメントに名前が刻まれ称えられるとのことであった。[注3]

（５－２）佐賀シュガーロード検定

7月28日にシュガーロード協議会が主催し、佐賀商工会議所が共催するシュガーロード検定について現地調査を行なった。NPO活気会が中心となって毎年春に実施されるご当地検定で、受験料は1,000円。佐賀の銘菓や長崎街道の歴史について30問が出題される。シュガーロード検定の最大の特徴は、長崎街道の歴史や和洋菓子に関する筆記試験だけでなく、郷土史

唐津・呼子イカ検定の現地調査
（呼子町商工会館　平成21年7月23日）

佐賀市シュガーロード検定の現地調査
（佐賀県庁　平成21年7月28日）

家による直前講習会や和菓子づくりの実技試験があることである。上級合格者には、シュガーロードや佐賀に関する歴史、文化に関するガイドとして、活躍の場を提供する計画とのことであった。これまでの受験者数は約 200 名と多くないが、佐賀県内だけでなく他県からの受験者もあり、シュガーロードに関する認知度は徐々に高まっているとのことであった。

６．期待される効果

飯塚市の歴史や観光情報、中心商店街の情報をご当地検定『飯塚検定』としてまとめ、パソコン用ホームページや携帯サイトで情報発信することで話題を提供し、飯塚市の魅力を広く伝えることができると期待される。また、携帯サイトは若い世代に対するアピールが強く、これまで飯塚市を訪れたことのない若者、学生など誘引することができると期待している。

７．まとめ

本研究は、現在進行中の研究である。

平成 21 年 10 月 17 日には“「飯塚検定」学生が作成”として西日本新聞筑豊版でも紹介され、年末にかけて応募者が増えると予想される。応募期間は平成 21 年 12 月末日までとしており、その後、データベースを分析し、応募方法別、地域別、年齢別、職業別等について報告する予定である。

注および参考資料

注１） SSL インターネットで使われている WWW や FTP などのデータを暗号化して、プライバシーに関わる名前や住所等の情報を安全に送受信することができる技術である。

注２） 飯塚検定の参加記念品は、（有）亀屋延永の羊羹「黒ダイヤ、白ダイヤ」の詰め合わせを選定した。

注３） 唐津・呼子イカ検定委員会「唐津・呼子イカ検定　公式テキストブック（問題・解答・解説）」平成 18 年 11 月 20 日初版　監修：唐津・呼子イカ検定問題作成委員会　発行：社団法人唐津観光協会　後援：（社）唐津観光協会ほか

参考資料・URL 等

１）楊紅・宮崎清・植田憲：内発的地域振興に関する回顧と展望，デザイン学研究 NO. 190 号，11 - 20，2008

２）学習天国　（http://kenten.jp/ ）　2009 年 10 月 19 日